

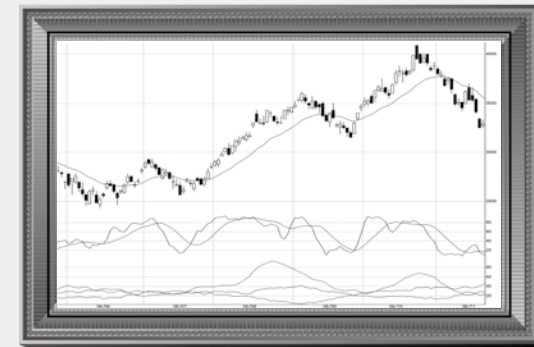
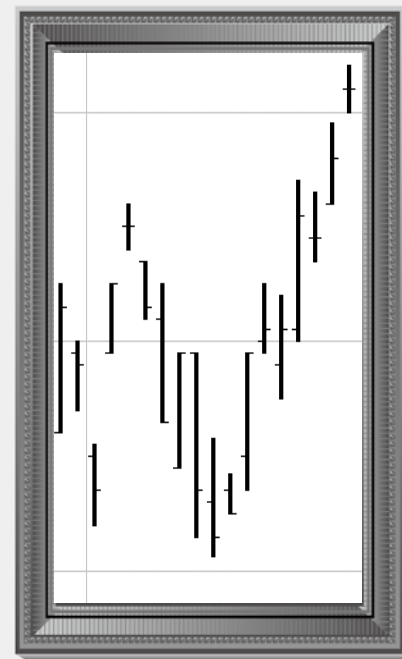
最近では書店に、トレード技術に関する本が多く並ぶようになりました。しかし（特に初心者は）、こうした本に書かれているアイデアをそのまま感覚的に用いるよりも、自分自身でそのアイデアを売買ルールとして具体化し、その有効性（優位性）を検証し、納得するまで研究すべきではないかと思います。

チャートギャラリープロの検索機能では、まずアイデア（理論）を明確な数字と条件で表現しなければなりません。つまり、アイデアを具体化する練習ができるわけです。

この作業によって、はっきりとした売買ルールが生まれ、過去のデータで検証し、厳守して遂行することへとつながります。つまり、それはシステムトレードの第一歩を踏み出したことにもなるのです。

関連DVD

櫻井元『DVD マーケットデータを毎日検証、チャートギャラリー徹底活用ガイド』パンローリング



第 3 章

チャート分析から システムトレードへ

柳谷 雅之



「システムトレード」

このキーワードに、どのような印象をお持ちでしょうか。

「オレは相場観で勝負するタイプだから」「パソコンは苦手だから」「なんか複雑で難しそう」といった感じで一歩引いてしまう方も少なくないと思います。しかし、本章ではシステムトレード全般について、できるだけ分かりやすく解説します。一歩引き気味な方も、ぜひ最後まで読み進んでみてください。

※本章はエム・ケイ・ニュース発行『Futures Japan』2005年4月号の特集記事をもとに加筆修正されたものです。

3-1 システムトレードとは？

必勝法……。だれもがあこがれ、多大な労力とその研究につき込まれてきました。ゲームやギャンブルを派生点として、相場の世界でも言われるようになったのでしょうか。その必勝法のいわんとするところはこういうことです。

「こうすれば必ず勝てる（儲かる）」

錬金術と同様、そんな必勝法は存在し得ないのは市場の機構を考えれば明確です。しかし、その必勝法から一歩（どころか、かなり）譲ってこう考えてみたらどうでしょうか。

「2回に1回負けるのは仕方がない。それでも勝ったときの金額が、負けたときの金額よりも大きければ儲かるのではないか」

これがシステムトレードの根幹をなす考え方となります。

次のトレードでいかに収益を上げるかではなく、結果の統計値、つまり**トレードを数多く重ねた結果の損益の通算値に着目して、それを最大かつ安定させることを目的とする**のです。

それにはトレードをルール化して、毎回同じスタイル、条件で実

行する必要が出てきます。トレードごとに条件が異なると、結果が不安定となり、統計的に意味を持たなくなってしまうからです。

相場の挙動はおおむねランダムに見えます。しかし、そのなかからある種の法則性を発見し、それを利用すべく、売買をルール化していくのです。

端的に言う「**売買システム=売買ルールの集合**」であり、「**システムトレード=ルールに従った継続的な売買**」となります。

これと相對する考え方がディスクリーショナリー（自己裁量）トレードです。こちらではトレーダーの相場観に従ってトレードが実行されます。

「買いだと思ったから買った、売りだと思ったから売った」という自分に素直なスタイルであり、トレード人口的にはこちらのほうが大多数ではないでしょうか。

相場史を振り返ると、システムトレードでも、裁量トレードでも成功者は存在します。どちらが良いかという話ではなく、これはスタイルの違いです。オリンピックのメダルを目指して100メートル短距離走を選択するのか、200メートル平泳ぎを選択するのか……。どちらも難しいことに違いはありません。

トレードで儲けることについても程度の差はあれ、基本的な主旨は同様です。自分の資質を生かせるスタイルを決めた後で、他人に勝る優位性を得るためにいかに努力をしたかで成果が決定します。

システムトレードの長所と短所

ルールに基づくシステムトレードには、どのようなメリットがあるのでしょうか。

何をおいても相場観を持たずにトレードができるため、相場観が原因となる精神的な圧迫から解放される点にあると思います。上がると買って買ったのに、天井近くを買ってしまって、なかなか損切りができずに、損切りできたのがドン底だったという経験のある方は、筆者以外にもいることでしょう。

この場合、精神的にかなり落ち込み、自己嫌悪に悩まされ、次の出動にまで引きずるものです。しかし、システムトレードではそのような感情からは解放されます。

噂など曖昧な情報に左右されることなく、結果に一貫性を持たせられることも大きなメリットでしょう。些細な情報が引き金となって利食いを早めたり、損切りを思いとどまったりして、あとで大きく後悔することからも解放されます。

毎日情報を分析しては判断に悩む必要もなくなり、日々の作業はシステムのサインを更新し、サインに変化があれば発注するだけになります。結果として、トレードに必要な時間が大幅に少なくなるでしょう。

また良いシステムは、さまざまな市場に応用が利くことが多く、売買対象を広げやすいことも大きなメリットだと思います。

個人が優位性を得やすいということも付け加えておきます。例えば、ファンダメンタルズ的な情報を取り上げてみると、個人投資家

が機関投資家（商社、ファンド、証券会社の自己売買部門等）と互角に勝負できるとは考えにくいことです。これがシステムトレードであれば、自分の努力次第で機関投資家とほぼ互角に勝負できます。

一方、短所についてはどうでしょうか。自明ではありますが、システムを構築するときに考慮しなかった事象が発生した場合などは、どうにも対応できません。

例えば、システムの売買サインに従いガソリンを売り建てているとします。ある日に何らかの原因で原油の輸入がストップしたらどうなるでしょうか。おそらくストップ高の連続で売り玉が仕切れず、想定した最大損失を大幅に上回る損を計上する結果となることでしょう。

また、システムトレードの直接の短所というわけではないのですが、トレーダーには、ルールどおりに売買することが心理的に難しいという事実が大きな壁として立ちはだかります。これはルールに従うことが自分の意思を殺すという非人間的な行為であるためです。この事実のために挫折する人は少なくないのではと思います。

3-2 売買システムの構築

売買システムは次の5つのルールから構成されます。

- ①セットアップ（前提条件）
- ②仕掛け
- ③仕切り
- ④損切り
- ⑤マネーマネジメント

すべてがそろって売買システムです。仕掛けのルールが強調されたり、注目されたりすることが多いようですが、実際に運用可能なシステムを作り上げるには、これらすべてをバランス良く構築する必要があります。

価格データを中心に、出来高や取組高など、利用できるデータをすべて研究の対象として、統計的に有効性の高いルールを決定していきます。

有効性の高いルールを見出すためにはコンピュータによる分析が大きな助けとなります。それゆえ「分析や検証にどんなソフトを使っていますか？」という質問をよく受けます。筆者の場合は、すべて独自のプログラムで検証、分析していますが、まずこの環境を整え